

新かながわグランドデザイン実施計画の 進行管理の考え方（案）

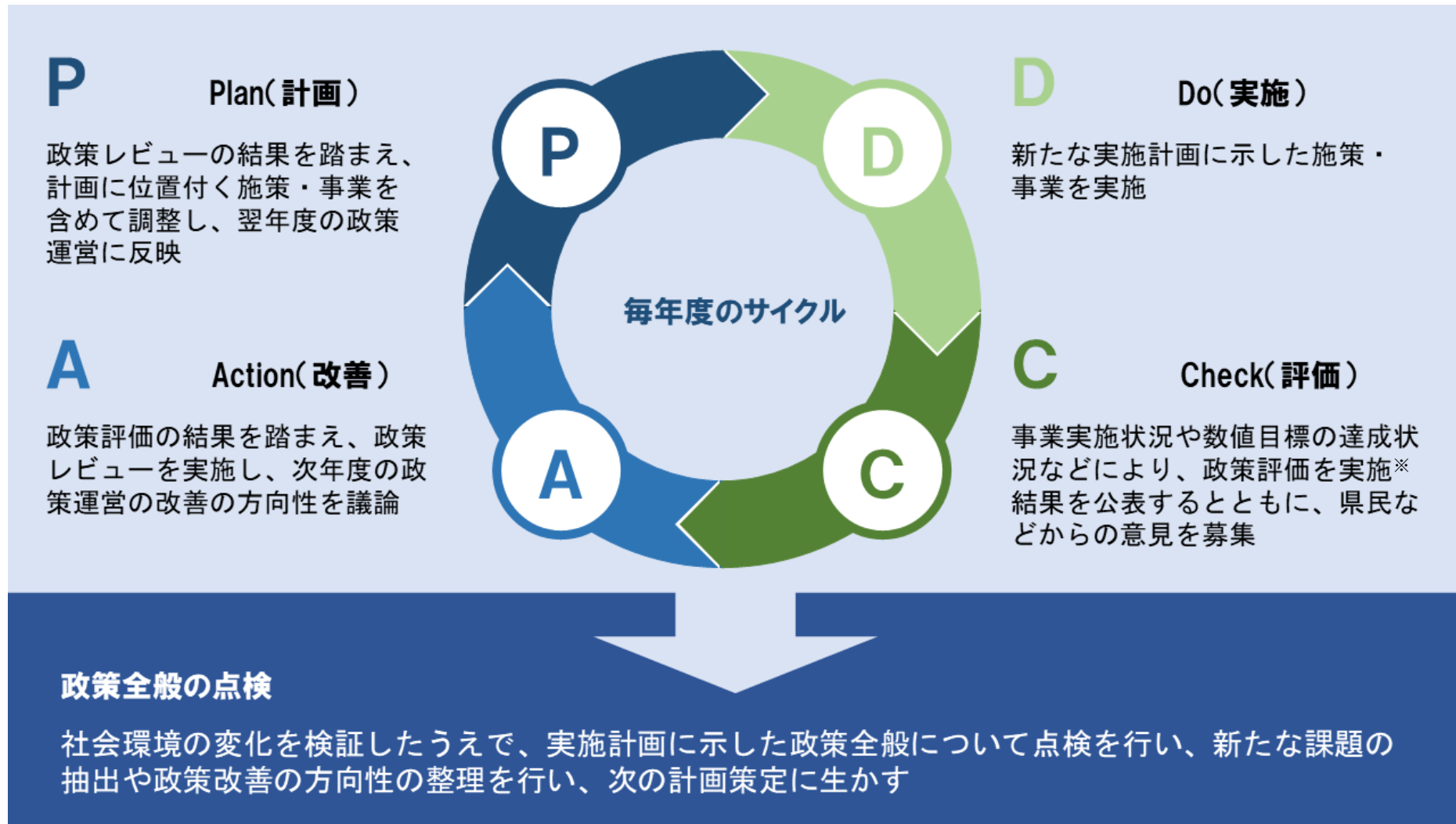
令和 6 年 7 月 政策局

計画の進行管理の概要について

計画の進行管理（新かながわランドデザイン実施計画 P.122）

- 計画を着実に推進し、進行管理を行っていくためには、**実施計画に示した施策の実施状況について政策評価**を行い、その評価に基づき政策運営の改善を図る「政策のマネジメント・サイクル」を確立し、効果的・効率的な政策運営を行うことが必要です。
- 「政策のマネジメント・サイクル」では、限られた予算・資源を有効に活用し、県民に、より信頼される行政を展開するため、証拠に基づく政策立案（EBPM=Evidence Based Policy Making）の考え方を取り入れるとともに、**数値目標の達成状況だけでなく、事業の取組状況や様々な統計データを活用**し、総合的に評価します。
- また、計画策定時に想定し得なかった事態が生じた場合には、「政策のマネジメント・サイクル」にとらわれず、その時々状況に応じた政策評価や柔軟な政策展開を図るものとします。

政策のマネジメント・サイクル



※ 政策評価は附属機関である総合計画審議会（計画推進評価部会）の審議を踏まえ、実施します。

計画の推進に当たっての留意事項

総合計画審議会答申（R6.3.26）抜粋

2. 計画の推進に当たっての留意事項

（2）計画の適切な進行管理

- 計画を着実に推進し、進行管理を行っていくため、プロジェクトに掲げた指標の動向やKPIの達成状況だけでなく、関連する事業の取組状況や様々な統計データなどを活用し、総合的に政策を評価していくことが必要です。
- プロジェクトのねらいと施策との関係性を明確にしたロジックモデルは、計画の構成を分かりやすく示したものであるとともに、効果的な進行管理に資するものであり、県の組織内でこれらのロジックモデルについて浸透を図り、政策の運営・評価に十分に活用していくことが重要です。
- 政策を検証し、新たな課題を発見することは、計画を次のステージに進めるためにも大切なことであり、しっかりと政策評価を行い、その結果を生かして政策改善につなげていくことを求めます。
- また、コロナ禍の経験を踏まえ、計画策定時に想定し得なかった事態が生じた場合は、「政策のマネジメント・サイクル」にとらわれず、状況に応じた政策評価や柔軟な政策展開を図ることや、評価作業そのものの「費用対効果」にも留意していく必要があります。

具体的な評価の方法等（案）

実施時期		事業実施年度終了後に評価を行い、7月上旬に公表。	
評価対象		県の重点政策を分野横断的にまとめ、具体的な取組内容を示した「プロジェクト」を評価	
実施主体	一次評価	県の事業部局（自己評価）	
	二次評価	総合計画審議会（第三者評価）（部会で評価案を作成し審議会で審議）	
内容	一次評価	構成施策の評価	KPIの達成状況、関連する統計データ、主な取組結果を用いた多角的な分析、評価
		プロジェクトの総合分析	KPIの達成状況、関連する統計データ、事業等の取組状況、指標の動向などを活用して多角的にプロジェクトを分析
		今後の対応方向	プロジェクト推進上の課題や政策運営の改善を含めて今後の方向性を整理
	二次評価	一次評価の妥当性、今後対応が求められる課題と対応方向を踏まえ、プロジェクトを評価	

評価に当たり用いる要素

実施計画の評価について、ロジックモデルを用いた評価を行うため、次の数値等を用いた段階的な評価を行う。

《実施計画に記載の目標値》

指標

プロジェクトの達成度を象徴的に表す数値として、4年後に達成すべき目標値を示したものの。各年度の進捗を参考として示す。

KPI

県が実施した施策や事業の進捗状況や達成の度合いを測るため毎年度の目標数値を示したものの。

《実施計画に記載のないデータ》

関連する統計データ

指標とKPIをつなぐ中間アウトカムを表すために用いる統計データ。県内の状況に加え、全国や他県との比較の視点なども取り入れて示す。

主な取組結果

KPIに関連する事業の取組内容と活動結果（アウトプット）

構成施策単位で**KPI**、**関連する統計データ**、**主な取組結果**を用いた多角的な分析、評価を行う。各年度の目標の達成度、達成／未達成の要因分析を行い、今後の取組方針を示す。

ロジックモデルを用いた評価の構成

ロジックモデル



プロジェクト全体・指標の評価

- 総合分析
 - ・構成施策ごとの目標達成割合
 - ・指標の動向（参考）

構成施策の評価

- 分析
 - ⇒構成施策単位で
 - 取組内容の評価を含めて分析
- 関連する統計データ

取組内容の評価

- KPIの達成状況
- 主な取組結果

評価の流れ（案）（令和7年度想定スケジュール）

1 県の事業部局による一次評価の実施 (令和7年2月中旬～4月中旬)



2 計画推進評価部会グループ会議において分野ごとに評価 (令和7年4月下旬)



3 計画推進評価部会において二次評価（案）の作成 (令和7年5月中旬)



4 総合計画審議会において二次評価を審議・決定 (令和7年6月上旬)

（参考）評価結果の公表

- ・ 議会報告 (令和7年6月下旬)
- ・ 評価報告書のHP公開 (令和7年7月上旬)
- ・ 県民意見募集の実施 (令和7年7月上旬～)

本日も意見を伺いたい事項

○具体的な評価の方法、評価の流れ（P4～P5、P7 参照）

⇒評価対象、実施主体やスケジュール等について

○ロジックモデルを用いた評価の構成のあり方（P6 参照）

⇒階層的な評価、階層別の評価項目等について

○『関連する統計データ』に用いる統計データ（P5～P6 参照）

⇒評価に用いるデータの選択や対外的な見せ方で留意すべき視点等について

○県民に向けた分かりやすい評価の記載のあり方（【資料2】参照）

⇒一次評価、二次評価の見せ方など県民に分かりやすい評価の記載方法の視点等について